

モス日通信

在ロシア日本国大使館附属
モスクワ日本人学校
第10号

吉田 総一郎

カラスは何色？～モスクワで感じた“先入観”というメガネ～

モスクワへ赴任し、8カ月が経つました。海外で生活していく中で感じた私なりの“先入観”について伝えていけたらと思います。

「先入観」という言葉を聞いてどんなことを考えますか。辞書には「実際に見たり聞いたりする前に、あらかじめ頭の中にできている固定的な考えや見方」などと載っています。今まで生活の中で自分自身先入観のみの考え方や言動をしてしまったなと思いつくことはありますか。私はあります。今まで気が付かなかった先入観に関して気づかされたことがあります。

「カラスは何色？」と聞かれたら何と答えますか？ほとんどの人は「真っ黒」と答えると思います。しかし、モスクワのカラスは写真のように黒とグレーです。「カラスはグレーです。」と答えてもモスクワでは正しいです。私自身も初めてこのカラスを見たときは驚きました。



さて、皆さんは「世界から見た日本人」にどんなイメージ(=先入観)があると思いますか。私は以前、サッカーワールドカップの試合後、日本人サポーターがスタジアムの片づけをしている姿を国際サッカー連盟(FIFA)が称賛したという記事を見ました。そのとき、「日本の当たり前が世界に認められているのだなあ」と感じました。そのため、海外の人たちが「日本人=礼儀正しい」といった良い印象を持っているものだと、思い込んでいました。でも、実際はどうなのでしょう。

ロシアの方々、私のような外国人を見るとまず「どこから来たのですか？」と尋ねてきます。ここではよく「中国人ですか？」と聞かれます。私が「日本人です」と答えると、多くの人が驚き、そして笑顔で握手を求めてくれます。これまで出会った多くのロシアの方々が、「日本人」という言葉にとっても良い印象を持っていることを実感します。しかし、私は日本で特別なことをしたわけでもなく、世界的に知名度があるわけでもありません。それでも「日本人」というだけで温かく迎えられ、なぜか誇らしい気持ちになります。それは、これまでの先人たちが築き上げてきた日本への信頼があるからではないかと思っています。一方で、あるとき「日本人です」と答えたら、ため息をつかれたこともありました。もちろん、人によっては日本にあまり良い印象を持っていないこともあります。そのときは悲しい気持ちになりましたが、その方と何度も関わりを重ね、笑顔で接し続けた結果、今では「こんにちは」と日本語で挨拶してくれるようになりました。

今、皆さんもきっと何かしらの先入観を持っていると思います。それは国や人種の話に限らず、もっと身近な人に対しても言えることです。たとえば、「先生」と聞いて思い浮かべる人物像。それも一つの先入観です。私が「日本人」という理由だけでロシアの方から明るく優しく接してもらえるように、先入観が良い方向に働くこともあります。ただし大切なのは、「自分がどんな先入観を持っているのかを自覚すること」です。それができなければ、思い込みによって誰かを傷つけてしまうかもしれません。これは外国の人に対してだけでなく、日々の友人関係や家族とのやりとりにも当てはまります。私たちは誰もが、何かしらの先入観を持ちながら生きています。ふとしたときに、自分の中の先入観を振り返ってみてください。きっと、新しい気づきがあるはずです。

HP : <https://sites.google.com/view/mosnichi-edu/home?authuser=0>

Instagram : Mosnichi gram